

2025年11月16日午前10時30分

聖霊降臨節第24主日 主日礼拝

司会 岩渕デボラ

奏楽 金井文子

讃美歌・詩編交誦・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のまつり)

前奏

招きのこば 第1コリント3:6-7

讃美歌 225「すべての者らよ」

交説詩編 77:5-16(P.87/83)

祈り

《関東教区お祈りカレンダー》

大宮教会 東大宮教会

(主の祈り)

讃美歌 186「エジプトのイスラエルに」

聖書 旧約:出エジプト6:2-9(P.101)

新約:ヘブライ11:23-29(P.416)

メッセージ『うめきを聞かれる神』

祈り 川上 盾 牧師

讃美歌 357「力に満ちたる」

献金 一 同

(献金感謝の祈り)

信仰告白(使徒信条・口語)

頌栄 25

祝祷

後奏

報告・紹介

〈招きのこば〉 第1コリント3:6-7

わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。

《11月礼拝当番》 徳島恵子 深町 穎
長嶋美智子 伊藤愛子
橋本洋子 井上ティナ

《今週の集会・行事》

- ◎ 本日礼拝後 地区大会(11/24) 歌の練習
- ◎ 本日礼拝後 教会報委員会
- ◎ 本日 15:00 群馬地区委員会(ZOOM)
- ◎ 18日(火) 牧師、育心こども園
- ◎ 20日(木) 10:30 婦人会例会(リストス教会訪問)
- ◎ 22日(土) 10:00 会堂清掃 B組
- ◎ 22日(土) 牧師、新島学園アドバイザリー委員会

《次週の主日》

◎主日礼拝 10:30 収穫感謝CS合同礼拝

メッセージ『私たちの世界の隅々まで』

聖書:新約:エフェソ2:14-16(P.416)

讃美歌 こ3,こ102,こ34,こ22,こ26

交説詩編 100(こどもさんびか P.207)

司会:CSこども 奏楽:木戸恵美子

◎豚汁交流会 礼拝後

《予告》

- ◎群馬地区大会 24日(月)10:00 新島学園中高
- ◎ フェローシップの会 30日(日) 礼拝後
お話:岡安茂能さん 参加される方は
掲示板の用紙にご記名下さい。
- ◎ アドベントに入る 30日(日)
- ◎ パイプオルガン・コンサート 12/6(土)13:30
演奏:表見 聖さん 入場 1,000円

《報告》

◎次週は収穫感謝CS合同礼拝です

秋の実りを神に感謝し、こども・おとな一緒に礼拝をささげます。礼拝の中で例年のように今年の新米(伊藤家農場)のおにぎりをいただきます。また礼拝後は、CSのこどもたちが作った豚汁を食べながら交流の時を過ごします。12:30には終了します。午後までゆっくりご予定下さい。

◎フェローシップの会(11/30)ご予定下さい

信徒の方の信仰生活や人生の足跡についてお話をうかがう集いです。今回は岡安茂能さんのお話です。昼食おにぎり(280円)発注数の確認のため、参加される方は掲示板の用紙にご記名下さい。

◎パイプオルガンコンサート(12/6 土 13:30)

演奏者の表見聖(おもみ・さと)さんは、神奈川教区の三・一(さんいつ)教会の牧師で、スペインに留学してオルガンの研修を積まれた方です。オルガンの代表的な曲だけでなく、クリスマスにちなんだ選曲も加えて下さっています。お近い方を教会にお誘いする機会として宣伝にご協力下さい。当日清算チケット(¥1,000、小学生以下無料)および案内チラシがありますので、どうぞご利用下さい。

◎クリスマス聖歌隊 エンバー募集

12/24(水)のキャンドルサービスで「さやかに星はきらめき(旧2編219)」及び祝祷後の「グロリア(から野のはてに)」を賛美します。練習は 11/30(フェローシップ終了後)、および 12/7 礼拝後、そして 12/24 本番前の 3 回です。参加される方は掲示板用紙にご記名下さい。

《消息》

- ◎ 稲垣恵一さん・西基和さん…それぞれに教会を訪ねて下さいました。「礼拝にはなかなか来れないけど、皆さんによろしく」とのことでした。
- ◎ 斎藤祥子さん…「まなの家」で静かにお過ごしです。先週お訪ねして祈りの時を持ちました。

《先週の集会》

	ジュニア	シニア	男女・大人	計
C S 朝礼拝	2	1	10	13
	礼拝堂	オンライン		献金
主日礼拝	44	24		33,081
紅雲町集会		11		

《メッセージ》「今を生きる信仰」

創世記15:1-6、マルコ12:18-27(11月9日)

▼人類は太古から死を意識して生きてきた。死を悼み、祈りをささげ、花を手向けて遺体を土に埋める..葬儀を行なう生物は人類だけだ。そんな歩みの中から宗教も生まれてきたのではないか。キリスト教に限らず、すべての宗教にとって、死をどう受けとめるかということは大切なテーマである。▼私は小学校高学年の時に強く死を意識するようになり、不安で夜眠れない日々を過ごした。中学生になってもっと確かに気付いた。「オレはいつかは死ぬ。しかしそれより確実なのは、いま生きてることや!」。それ以来、「今この時を充実して過ごすことを大切にしよう」と思えるようになった。▼今日の新約は、死後のことについてイエスに質問をした人のエピソードだ。サドカイ派のひとりがイエスに尋ねた。「ある人が妻を残して死んだので、その兄弟が跡を取った。その兄弟も死に、次々に7人の兄弟が妻を残して死んだ。復活の時、この女は誰の妻になるのか?」▼サドカイ派は復活を否定していた。この問いには死後の世界への関心というよりも、復活を否定する意図があつてのことであろう。「なんでそんなバカげたことを信じているのか」と。▼イエスは「復活の時には娶ることも嫁ぐこともない、天使のようになるのだ」と語り、モーセに神が語りかけた「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神」という言葉が死者の復活を証明している、と答えられた。なんとも意味不明の解説である。▼しかし続けて語られた言葉は大切なメッセージを含んだ言葉だと思う。「神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ」。我々が死んだ後にどんな世界を用意してくれているのか...そんなことに備えるために私たちは神を信じるのではなく。私たちが神を信じる信仰を抱くのは、死後に備えるためではなく、今を生きるためなのだ!...そう言われるのである。▼そんな「今を生きる信仰」を表すモデルがイスラエルの父祖・アブラハムである。裕福な暮らしをしていた彼は、ある日突然示された「私の示す地に向かって旅立ちなさい」という神の命に従つた。「私(神)はあなたを祝福する」そんな雲をつかむような言葉だけが根拠だった。▼今日の箇所では「お前の子孫はあの空の星のようになる」と神は語られた。アブラハムはその約束を信じた。「主はそれを彼の“義”と認められた」と記される。▼アブラハムは約束された未来を先取りして確信したから旅立ったのか? そうではなく、神の約束に従う「今、この時」に意味を見出したから旅立つ(ヘブライ11:8)それがアブラハムの「今を生きる信仰」である。▼では私たちは死んだ後、どうなるか? それは私たちは分からない。神さまにおまかせするしかない。それよりは「今をしっかりと生きること」を大切にしよう。立派な生き方でなくとも、カッコ悪くてもいい。一度限りの人生、今を大切に生きて、感謝と充実のうちに「その日」を迎えよう。